

と特別な仲間と か 語ってみたい? ち 地域の話

十勝らしさを出すべく、主事会役員による意見交流の様子を**動画**にしました！
2つのテーマについて、かな〜マジメに**熱い想い**を語っています！ご覧あれ！

- 出演者：明上 幸太（中札内村） 大石 秀人（芽室町） 高橋 克磨（上士幌町） 石田 彩佳（新得町）
- 進行：若原 遼（士幌町）

テーマ①：コロナ禍における地域の活動の変化・工夫 等

●明上（中札内村）

- ・事業を簡単にやめられなかった。
- ・やりたい人とやりたくない人の狭間に置かれてしまった。
- ・できる限り**町民の気持ちを伺えるように**話を聞くようにした。

●大石（芽室町）

- ・住民のコロナに対する意識は、世間の感染状況に近かった。
- ・高齢者学級について、**高齢者側から**「対策を取った上で学習したい」と意向があった。
理由：高齢者学級を通じて**生きがいや繋がり**を得ているから

●高橋（上士幌町）

- ・コロナをきっかけに事業の必要性や目的を整理できた1年。
- ・社会教育は無くても困らないが、住民からの「**寂しかった、辛かった**」といった声を聞いて**改めて必要性を感じた**。

●石田（新得町）

- ・できる限り活動の場をなくさないよう意識
- ・どうすればできるか、**やりたい人達の居場所を確保するのが役目**
- ・町の事業がストップしている中、どのようにして実施するかを考えた。

テーマ②：ポストコロナ時代の社会教育に何が必要か

●明上（中札内村）

- ・まずは**人と会って話す**ことが重要
- ・子どもの事業がない × 発表する場がない（文化団体等）＝新たな場の創出！？
- ・コロナが落ち着いたら「**つながる欲**」(※)が芽生える！？
社会教育主事の仕事は1人ではできない。同じ考えを持ってくれる人を育てるのが仕事かも

●大石（芽室町）

- ・社会教育は町の輝き・活性化に繋がるため、できることが少ない中だからこそ**アイデアを蓄積し、今後住民に提供**していく
- ・大きな事業（都市交流等）ができないからこそ、**自分の町を見つめ直す機会**にもなる。
必要な人＝今力を溜めている人

※つながる欲・・・「自分と他人」「自分と団体」といった「誰か」と繋がって何かをやりたい！という欲求の意（出典：明上大辞典）

●高橋(上士幌町)

- ・活動したい人のモチベーションの上げ方の工夫
(目標、発表の場がない)
- ・今はくすぶっているが実は「つながる欲」を持っている人が爆発するのでは!?
- ・コロナ禍を**充電期間**と捉え、「**きっかけ**」を蓄える
必要な人=今ウズウズしている人
→見つけるために外に出る

●石田(新得町)

- ・やりたい人の気持ちをいかに汲み取って、**どう手助けすべきかを考える**
- ・モチベーションが下降気味の人ほど、寄り添う必要

●おわりに

十勝ではコロナ禍を今後に向けての**充電期間**と考え、逆にプラスに捉えることができました!しかしそれは**住民の声を聞く努力**をし、住民の想いを感じ取れたからです。同時に、社会教育の必要性や大切さも**コロナのおかげ**(良い意味)で改めて実感することができました。

コロナが落ち着いてきた時には、**ウズウズしている人**(してきた人)を見つけ、自分から繋がりに行き、モチベーションを上げてもらうための工夫をしていければと思っています。以上、十勝社会教育主事協議会の実践発表でした!